

過去6年間を振り返れば——
爽やかな達成感

2025年春

未来6年間を見渡せば——
晴れやかな高揚感

（幕開けは2019年春）

新生桐蔭、教育力の証し「共学1期生」が巣立つ

（ムーヴ桐蔭論2025）新生桐蔭の準備期から継続して取材する記者の最新オピニオン

桐蔭、“新しい進学校”の深み

取材に基づきますが、コメントには記者主観を含みます。

“旧い進学校”の生徒は、数値でゴールを定めて、「合格」のために「計画」し、その「実践」に追われました。
“新しい進学校”の生徒は、目の前の「成果目標」「行動目標」より先の——

「状態目標」を構想する



◀（参考）大学合格実績

> 共学1期卒業生 状態目標<

「自分が設計に関わった半導体が世界中で使われ、未来のテクノロジーを支える存在になることを目標にしています。」

——Nくん（東京都市大学 理工学部 進学）

「理学系の研究者として大学や研究機関で研究に没頭する姿を思い描いています。」

——Yくん（東京大学 理科一類 進学）

「生涯を通じて社会貢献し、仕事とプライベートを両立できる自立した医師になりたい。」

——Uさん（東京女子医科大学 医学部医学科 進学）

哲学

彼らが求めるのは「高学歴」ではない。生活の糧としての職業でもない。人格・思想を含めてありたい自分を描き、生きる意義を探究しているのです。

【参考：反義語「外発的動機」】 報酬・懲罰で行動を促す。学校や家庭が乱用する手段。一時的に成果を得るが持続性は欠く。ご褒美獲得・お仕置き逃れが目的化。勉強・努力の本意を見失ってしまう。

内発的動機を涵養するために、以下の3要素を念入りに培いつづけてきた

自律性

自身で主体的に行動を選択

有能性

自信に基づき自己を肯定

関係性

周囲の他者と互いに尊重

醸成

学園生活全域で個々の子どもたちを観察。廊下で擦れ違いざまの一言の声かけにも熟慮。「内発」を導くためには、あらゆる局面で、タイムリーな助言を要するからです。機械的手法での「促成」は不可能。6年を鳥瞰し、忍耐強い“待つ”“信じる”教育を貫いた愛情と情熱こそが新生桐蔭の核心です。

桐蔭エデュケーションの主題

■Intrinsic Motivation

内発的動機

（成長原動力）

心の内に沸き起こる意志を温める。
6年前、教諭陣が誓った信念です。

男子校期とは全く別学校。ただし——
根から覆したりリセット型改革ではない。
注ぎ込まれたのは——

桐蔭ハイクオリティ

■Agency

主体性+責任感

（成長推進力）

先駆けてアクティブ・ラーニングを推進した学園。グループワークでは、他者の意見に耳を澄ましなが、積極果敢に、建設的な自己見解を重ねます。常に胸中には、「仲間のために自分は何を？」。自ずと動機は「社会変革のために」。公明正大な使命感がみなぎります。

【Close Up】 桐蔭研究上級編

本誌記者は力説したい——桐蔭の心と技が映るところ×2

にぎやかなホームルーム

「旧い進学校」と異なるフレンドシップ
予備校の効率主義から脱却すると——

ホームルームには、（5・6年生も）理系生・文系生が混在。「国公立」「特別選抜」（等）の編成が皆無。カラフルな個性が隣りあって互いに感化。互いに鼓舞。チームは特定志向（嗜好）で閉塞せず、アイデア・メッセージが色とりどり。彼らは「同じ学部を志望」で結束せず、「自ら道を拓く」志を共有しているのです。（※教科授業は志望・学力によって分散します）

うらかな思索の広場

「桐樹の蔭」に流れる時間、心の空間
鳳凰が飛翔力を蓄えるところだから——

急ぎ立てない。曇みかけない。常に与えつづけるのは、心の内の余地。ただし、負荷を軽減する「ゆとり」とは異なります。方向を示唆する。選択肢を例示する。ステージを紹介する。そして、時間をプレゼントして考えさせる。個々との親密な対話を重ねる高度な教育術。桐蔭教諭陣の腕の見せどころです。（具体策は先生方に尋ねてみましょう！）

2019—2025 幸福な学園史 生徒、教諭、保護者が一体となった6年

6年間の中等教育期を担う「共同体」は、進学実績を積み上げるだけの訓練所であってはならない。全教諭のエネルギーな「自発」が協調。ピュアな教育者スピリットが共鳴。「絵空事」「大言壮語」を慎み、ともに過ごす子どもたちに寄り添い、今日につとめました。学園の進化を伝えるのは「大学合格者数増」ではありません。（たとえば）ランチタイムの食堂に満ちる壮快な生命力です。ぜひ、校地を訪ねてください。“新しい進学校”は、キラキラと“陽当たり良好”です。



制服紹介▶



第2ステージ幕開け。
奮い立つ“主人公”を歓迎！

「“新しい進学校”を創りあげたのは子どもたち。彼らは、6年前の未来像をはるかに超える学園を築いてくれた。」
生徒を称える先生方の柔らかな笑顔こそが桐蔭教育文化の象徴。信望を集める源。今後の加速を確信します。

桐蔭学園中等教育学校 男女共学

<https://toin.ac.jp/ses/>

説明会・入試情報▶



〒225-8502 横浜市青葉区鉄町1614番地
TEL：045-971-1411

アクセス▶



【アクセス】 右記鉄道駅よりバス>東急田園都市線「市が尾」「青葉台」／東急田園都市線・横浜市営地下鉄ブルーライン「あざみ野」／小田急線「柿生」「新百合ヶ丘」